

紙でつなぐ、未来をつくる

第148期

中間株主通信

2021年4月1日 ▶ 2021年9月30日

CONTENTS

- P1 | コーポレートメッセージ
- P2 | トップメッセージ
- P3 | 連結決算ハイライト
- P4 | セグメント別の状況
- P5 | トピックス



国際紙パルプ商事株式会社
KOKUSAI PULP&PAPER CO.,LTD.

証券コード 9274

コーポレートメッセージ

紙でつなぐ、 未来をつくる

文字の起源を遡ると紀元前4000年にたどりつきます。言葉のコミュニケーションに文字が加わり、紙が発明され、印刷技術も進化を遂げました。中でも活版印刷はヨーロッパで起こったルネッサンスや宗教改革、科学革命に大きく寄与しました。紙は文字や活字と共に人類の進歩をサポートした偉大なイノベーターであったと言えます。そして今、豊かな自然環境を守るために、「紙」が新しい未来を切り拓いていきます。環境にやさしい素材である紙を使うこと、それは未来をつくることです。

/// KPPグループサステナビリティ基本方針の策定、及びマテリアリティを特定

当社グループでは今年度、「KPPグループサステナビリティ基本方針」を策定し、マテリアリティを特定しました。これからもKPPグループウェイを軸に、グローバルなサステナビリティ課題解決に取り組んでまいります。

KPPグループウェイ



KPPグループサステナビリティ基本方針

私たちKPPグループは「KPPグループウェイ」の基本理念に基づき、総合循環型経営の展開を通して、持続可能な社会の実現に貢献します。

また、私たちは環境や社会、そしてガバナンスを経営の重要事項として捉え、事業活動に関わる重要課題の解決に取り組みます。

KPPグループのマテリアリティ

グローバル展開

- グループシナジー創出
- インナーコミュニケーション

DXへの対応

- Eコマースの展開
- 新システム開発

グリーンビジネスの展開

- プラスチック汚染問題の解決
- リサイクルや廃棄物の削減

気候変動対策

- 温暖化防止ソリューションの開発
- CO₂排出量削減

ダイバーシティ&インクルージョン

- 多様性の確保
- 多様な人材の活用

ガバナンスの強化

- コンプライアンス
- 情報セキュリティ
- リスクマネジメント

トップメッセージ



代表取締役会長 兼 CEO

田辺 円

代表取締役 社長執行役員

栗原 正

株主の皆様へ

株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り心より御礼申し上げます。さて、2021年度中間期における当社グループの経営環境ですが、新型コロナウイルス感染症による影響が世界規模で広がる中、先進国を中心にワクチン接種の進展に伴い経済活動も徐々に回復基調にあります。

一方、いち早くコロナの封じ込めに成功した中国は、足元では不動産投資規制を始め、電力不足、教育産業やIT産業への規制強化を背景に経済の減速懸念が浮上しております。また、ASEAN地域もコロナ禍から抜け出せず、労働力不足による工場稼働率の低下が続いております。

このような状況の下、当社海外事業における欧州・豪州地域会社は、パッケージソリューション及びビジュアルコミュニケーション事業に加え、紙市況の回復によって好調に推移し、アジア事業の不振を補っております。

国内紙パルプ卸売事業は、製紙原料の市況が回復するとともに紙・板紙の出荷数量も増加傾向にあります。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高2,691億33百万円となりました。営業損益においては、売上総利益は前連結会計年度に取得したAntalis S.A.S. (以下、アンタリス)の買収効果により前年比で増益となりました。営業利益は38億22百万円(前年同期は75億66百万円の営業損失)、経常利益は42億5百万円(前年同期は82億18百万円の経常損失)、親会社株主に帰属する四半期純利益は34億85百万円(前年同期は72億36百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失)となりました。

今後の展開としてはバイオマス発電所運転支援システム「BMecommo」の販売を推進するとともに、古紙の回収・納入データを一元化管理する「ecommo クローズドリサイクル」等の環境関連事業を促進してまいります。また、脱プラ関連需要への取り組みを強化し、「紙化」「減プラ」「バイオプラスチック」など多様な観点から、代替の素材や製品の開発、流通を拡大してまいります。

連結決算ハイライト

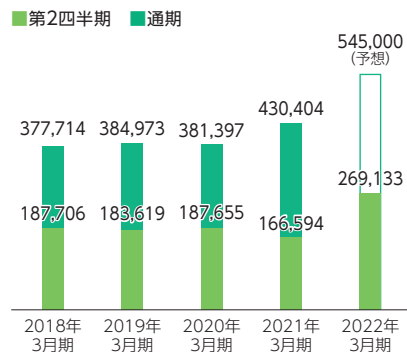
2022年3月期第2四半期のポイント

Point 1 国内・海外ともにコロナウイルス感染症の影響を受けたものの、前連結会計年度に取得したAntalis S.A.S.の買収効果が寄与し大幅な増収・増益を達成。

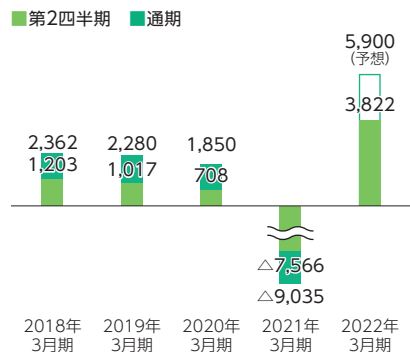
Point 2 国内拠点紙パルプ事業においては、前年のコロナ感染拡大による経済活動の低迷の反動から、販売数量は増加したものの、その回復は限定的。

Point 3 海外拠点紙パルプ事業については、豪州のSpicers Limited、欧州のAntalis S.A.S.の業績が回復し、また前期発生した中国・香港事業での貸倒の影響が一巡したことによって増収・増益を達成。

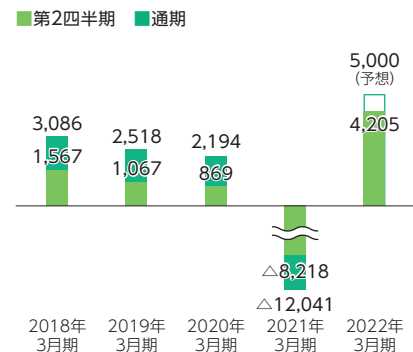
売上高 (百万円)



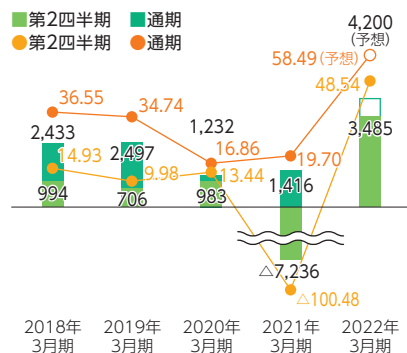
営業利益 (百万円)



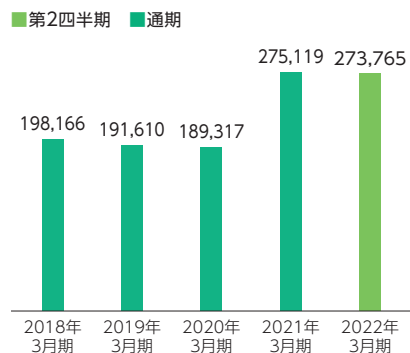
経常利益 (百万円)



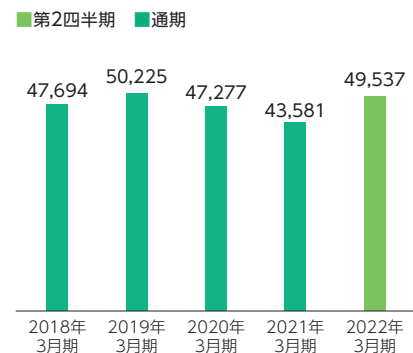
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 / 1株当たり四半期(当期)純利益 (円)



総資産 (百万円)



純資産 (百万円)



セグメント別の状況

一 国内拠点紙パルプ等卸売事業



売上高 **1,238億63** 百万円
 セグメント利益 **24億47** 百万円 (前年同期比 149.2%)

紙分野では、前年同時期が緊急事態宣言発令の影響を最も大きく受けた期間であった為、前年同期比ではグラフィック用紙を中心に販売数量が大幅に回復しておりましたが、7月の緊急事態宣言の再発令により、その後の回復は限定的となりました。

紙器用板紙は、昨年のインバウンド需要の喪失により大幅な販売減となりましたが、今期に入り数量の回復がみられました。飲料用の包装資材向け段ボール原紙も堅調に推移した結果、販売数量は前年を上回りました。

製紙原料分野では、古紙は、発生不足から市況にタイト感が生じ、販売金額は大幅に増加しました。パルプは特に輸出が好調に推移し、数量、売上高共に前年を大幅に上回りました。

一 海外拠点紙パルプ等卸売事業



売上高 **1,446億47** 百万円
 セグメント利益 **27億52** 百万円 (前年同期は82億2百万円のセグメント損失)

欧州においては、昨年7月に買収したアンタリスの業績が寄与し、数量、売上高ともに前年同期比で大幅な増加となりました。上半期前半は、局所的にロックダウンが続きましたが、ワクチン接種の進展に伴い、各地で経済活動が順調に回復し、業績に好影響を与えています。

豪州を中心としたオセアニアでは、昨年のコロナ禍からの回復、及び新規に取得した事業が業績貢献し、スパイサズは数量、売上高ともに前年同期比で大幅な増加となりました。

中国では、慶真紙業が従来のインデントビジネスからストックビジネスを6拠点で展開し、業績が急回復しております。

一 不動産賃貸事業

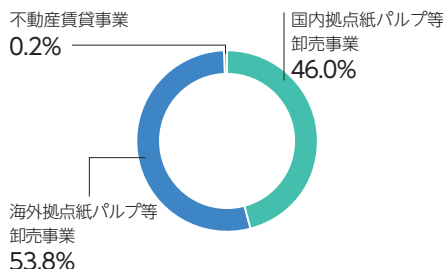


売上高 **6億22** 百万円
 セグメント利益 **86** 百万円 (前年同期比 25.4%)

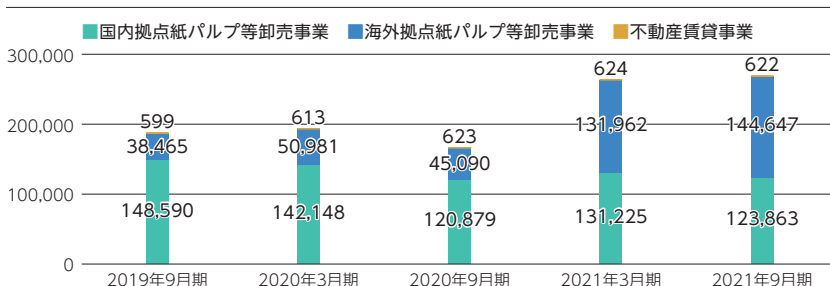
全国主要都市のオフィスビル市場は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりオフィス需要が減退し、東京地区の平均賃料が下落に転じており、その他の地区でも賃料が弱含みで推移しています。

このような状況下、当社グループでは主力のKPP八重洲ビルが満室稼働を継続したこともあり、売上高はほぼ横ばいとなりましたが、利益面では2021年2月の同ビル土地売却に伴う賃料発生などにより減益となりました。

2022年3月期第2四半期
 セグメント別売上高構成比



セグメント業績推移



社内横断型プロジェクト「Green Biz Project」を中心に環境事業を推進

世界ではSDGsの国連決議を背景にプラスチック・フリーの潮流が広がっており、環境負荷低減の動きが加速しています。当社では海洋プラスチック汚染問題などの課題解決に向けて、若手社員を中心に「Green Biz Project」を2019年、社内横断型に立ち上げました。様々な視点から活発に意見を交わし、3R+Renewableをコンセプトとした新商品や素材の開発・流通や、新たなビジネスモデルの構築などを推進しております。主材料を紙にすることで石油由来プラスチックの使用量を大幅に削減した紙製クリアーホルダーやアパレル向け試着用フェイスカバーなど、ユーザー様と共同で開発した商品が採用、上市されるなど実績も増やしております。今後も当社グループの販売・調達・加工のネットワークを駆使し、環境負荷低減に貢献できる活動を拡大していきます。

Green Products

Green Products	紙化	● 海洋プラスチック汚染問題から、世界各国で使い捨てプラスチック規制の動きが加速し、代替素材としての紙の需要が高まっている。近年では製紙メーカーを中心に研究開発が進んでおり、食品パッケージや日用品・文具用品でも採用事例が増えている。
	減プラ	● プラスチックの持つバリア性や加工適性などの特性を損なわない程度に、製造技術の革新やバイオマス素材である紙・パルプを混成させることにより石油由来プラスチックの使用量を削減したもの。
	バイオマス素材	● プラスチックが持つ様々な特性は、他の素材には簡単に切り替えることが困難なケースも多いため、環境負荷低減に向けた研究が進んでいる。バイオマス原料より製造される「バイオマスプラスチック」と、微生物により生分解される「生分解性プラスチック」などがある。

開発製品例



紙製クリアーホルダー 試着用フェイスカバー

「Green Products」専門ページ



Green Solutions

オフィスecom

オフィスで発生する文書を安心・安全に回収し、製紙原料としてリサイクルする仕組み

BMecom

AI・IoTを活用した、バイオマス発電所の管理支援を目的としたシステム

タウンecom

家庭から発生する古紙をスーパーや小売店などで回収、リサイクルする仕組み

ecom Closed Recycle Service

顧客の業態やニーズにあわせた、クローズドリサイクルの提案から構築までの提供

▶ 詳しくは当社コーポレートサイトのGREEN KPPをご覧ください。

より詳細な情報は当社ホームページをご覧ください。

コーポレート
サイト



企業情報、事業内容、IR情報などをタイムリーに発信しているWebサイトです。

IR情報



財務・業績情報及び統合報告書や決算説明会資料など、各種IR資料を公開しております。

中国において紙商事業を展開・拡大中

昨年発生した不良債権の問題を解決する中において、中国事業を担う慶真紙業貿易(上海)有限公司(以下、「慶真紙業」)はストックビジネスが展開できる紙商へと転換することができました。現在では上海、無錫、杭州、北京、済南、深圳の6拠点を構えることにより、中国経済を牽引する沿岸部全域をカバーする体制を整えることができ、順調に業績を拡大しています。

今年7月に設立した深圳分公司は華南地区において事業拡大しており、同地区最大のマーケットである広東省のGDPは中国首位であり、地区別紙・板紙生産量においても第1位、2020年の生産量は2,012万トンに及びます。

中国は世界最大の紙・板紙市場であり、慶真紙業はKPPグループの海外事業における主力企業として更なる発展を目指しております。

ECサイト「ペーパーモール」を運営

当社のオンラインショップ「PAPER MALLペーパーモール」は、今年で開設11年目を迎えます。インターネットで印刷用紙や特殊紙を1枚から加工・購入できるため一般企業様から個人様まで幅広いユーザーにご利用いただいております。環境配慮商品や梱包資材商品の取扱いを開始し、新たなユーザー層に向けた商品の追加を進めています。紙のスペシャリストである当社の強みを生かした紙の総合サイトとして、紙に関する質問やご相談も受け付けています。また、環境に配慮した製品紹介サイト「Green Products」には、「紙化」「減量プラスチック」「バイオプラスチック」といった原材料の種類別に衣食住のシチュエーションに合わせた商品ラインアップを展開しています。これからも当社は、これまでの紙流通ビジネスで培ったノウハウ及びビジネスパートナー各社との協業をもとに、循環型社会の実現のためお客様へより魅力的なサービスを提供してまいります。

慶真紙業について

社名 慶真紙業貿易(上海)有限公司 設立 2010年
事業内容 紙類等の加工および販売

拠点一覧



サイト画面イメージ

ペーパーモールは
こちらから
ご覧いただけます。



GREEN KPP



KPPグループの持続可能な社会づくりに向けた様々な取り組みをご紹介します。

サステナ
ビリティ



当社のサステナビリティに対する考え方やマネジメント体制、環境や社会への取り組みを掲載しております。

中間配当実施のお知らせ

2021年11月12日開催の取締役会におきまして、上場以来初となる中間配当(第2四半期末配当)につき、1株当たり5円とすることを決議いたしました。期末配当につきましても、1株当たり7円を計画しており、これにより年間配当は、1株当たり12円となる見通しです。
なお、中間配当金のお支払開始日は、先に中間配当決議通知はがきでご案内の通り、2021年12月2日とさせていただきます。

株式の状況・会社概要

株式の状況

(2021年9月30日現在)

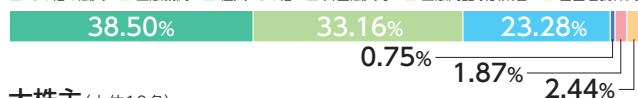
発行可能株式総数	267,500,000株
発行済株式の総数	75,077,406株*
株主数	5,974名

※ 自己株式(1,832,998株)を含んでおります。

※ 本年10月1日を効力発生日とする自己株式の消却を実施し、消却後の当社の発行済株式の総数は73,244,408株となります。

所有者別の株式保有比率

■ その他の法人 ■ 金融機関 ■ 個人・その他 ■ 外国法人等 ■ 金融商品取引業者 ■ 自己名義株式



大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
王子ホールディングス株式会社	12,736	17.3
日本製紙株式会社	6,770	9.2
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	4,714	6.4
株式会社みずほ銀行	2,857	3.9
国際紙パルプ商事従業員持株会	2,834	3.8
株式会社三菱UFJ銀行	2,625	3.5
株式会社三井住友銀行	2,625	3.5
農林中央金庫	2,625	3.5
北越コーポレーション株式会社	2,521	3.4
三菱UFJ信託銀行株式会社	2,180	2.9

(注) 持株比率は自己株式(1,832,998株)を控除して計算しております。

会社の概況

(2021年9月30日現在)

商号	国際紙パルプ商事株式会社
設立	1924年(大正13年)11月27日
本社	東京都中央区明石町6番24号
資本金	47億2,353万円
従業員数	5,401名(連結) 644名(単体)
事業内容	紙・板紙・紙加工品・パルプ・古紙・化成品・紙関連機械・包装資材・その他関連商品の売買及び輸出入、不動産の保有、賃貸、倉庫業
連結子会社	100社
関連会社	8社

取締役及び監査等委員

(2021年9月30日現在)

代表取締役会長 兼 CEO	田辺 円
代表取締役 社長執行役員	栗原 正
取締役 常務執行役員	生田 誠
取締役 常務執行役員	浅田 陽彦
取締役 常務執行役員	池田 正俊
取締役(社外)	矢野 達司
取締役(社外)	鷲谷 万里
取締役監査等委員	滝口 和之
取締役監査等委員(社外)	小林 敏郎
取締役監査等委員(社外)	伊藤 三奈

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 毎年3月31日、期末配当 毎年3月31日、中間配当 毎年9月30日 その他必要がある場合は、予め公告する一定の日
公告の方法	電子公告 当会社の公告方法は、電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告ができない場合は、東京都において発行する日本経済新聞に掲載する。

株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同連絡先(郵便物送付先電話番号先)	〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711(フリーダイヤル)
単元株式数	100株
証券コード	9274
上場取引所	東京証券取引所市場第一部



国際紙パルプ商事株式会社
KOKUSAI PULP&PAPER CO.,LTD.

〒104-0044 東京都中央区明石町6番24号 TEL. 03-3542-4111
<https://www.kppc.co.jp/>